

教務部情報

【教育課程】

本学の教育課程は、「ヒューマンケアリング」を実践できる看護職者を育成することを目的として編成し、徹底した人間愛の教育と実践を支える高度な看護学・医学の知識・技能習得をめざしています。各科目の編成および単位数は下表のとおりです。

※2012～2015年度生

区分	授 業 科 目	年 次	単 位 数			時 間	コ マ	卒業要件 (合計126単位以上)	備 考	
			必修	選択	自由					
基 礎 分 野	建学の理念	1	1			30	15	必修 4 単位	基礎分野の 選択科目から 7単位以上修得	
	キリスト教と文化	1	1			30	15			
	キリスト教の歴史と倫理	1		1		30	15			
	音楽	1		1		30	15			
	文化人類学	1		2		30	15			
	生命倫理	1	2			30	15			
	小 計	6科目		4	4	0	180	90		4
	人間と社会	生物と地球環境	1		2		30	15		必修 4 単位
		人間の発達と心理	1	1			30	15		
		人間関係論	1	1			15	8		
		社会福祉学	1		2		30	15		
		ボランティア活動論	1		1		30	15		
		教育方法論	1		1		30	15		
		食生活論	1	2			30	15		
		法学（日本国憲法を含む）	1		2		30	15		
		体育	1		2		30	15		
		小 計	9科目		4	10	0	255		
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	コンピュータ・リテラシー	1	1			30	15		必修 5 単位
		情報処理演習	1		1		30	15		
		Basic English	1	1			30	15		
		Basic Medical English	1	1			30	15		
		English Presentation	2		1		30	15		
		Communication in English	2		1		30	15		
English for Nursing		2	1			30	15			
コミュニケーション・リテラシー		2	1			30	15			
小 計	8科目		5	3	0	240	120	5		
中 計	23科目		13	17	0	675	338	13	7	
専 門 基 礎 分 野	生命科学	1	2			30	15	必修 9 単位		
	生化学	1	1			30	15			
	人体の構造と機能Ⅰ（解剖学）	1	2			60	30			
	人体の構造と機能Ⅱ（生理学）	1	2			60	30			
	薬理学	1	1			30	15			
	微生物学・感染学	2	1			30	15			
	小 計	6科目		9	0	0	240	120	9	
	疾病の成り立ちと回復	病理学概論・総論	1	1			30	15	必修 7 単位	
		病態・疾病論Ⅰ	1	1			30	15		
		病態・疾病論Ⅱ	2	1			30	15		
		病態・疾病論Ⅲ	2	1			30	15		
		病態・疾病論Ⅳ	2	1			30	15		
		病態・疾病論Ⅴ	2	1			30	15		
		病態・疾病論Ⅵ	2	1			30	15		
	小 計	7科目		7	0	0	210	105	7	
	生活者の健康	カウンセリング論	1	1			30	15	必修 12 単位	
		公衆衛生学・疫学	2	2			30	15		
		保健医療福祉行政論	2	3			45	23		
		保健統計学	2	2			30	15		
		健康教育論	2	1			30	15		
健康と栄養		1	1			30	15			
セルフケア論		1	1			30	15			
臨床心理学		2	1			30	15			
音楽療法		4		2		30	15			
小 計	9科目		12	2	0	285	143	12		
中 計	22科目		28	2	0	735	368	28		

区分	授業科目	年次	単位数			時間	コマ	卒業要件 (合計126単位以上)	備考
			必修	選択	自由				
専門分野 I	基礎看護学	看護学概論	1	1		30	15	必修14単位	専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ及び統合分野の選択科目から4単位以上修得
		看護理論	1	1		15	8		
		ヒューマンケアリング論Ⅰ	1	1		15	8		
		ヒューマンケアリング論Ⅱ	2	1		30	15		
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	1		30	15		
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	3		75	38		
		基礎看護学方法論Ⅲ	2	2		45	23		
		フィジカルアセスメント	1	1		30	15		
		看護過程	2	2		60	30		
		家族看護論	1	1		30	15		
	小計	10科目	14	0	0	360	182	14	
	臨地実習	基礎看護学実習	2	1		45		必修3単位	
		看護過程実習	2	2		90			
		小計	2科目	3	0	0	135		
中計	12科目	17	0	0	495	182	17		
専門分野 II	成人・老年看護学	成人看護学概論	1	1		15	8	必修10単位	
		成人看護援助論Ⅰ	2	2		60	30		
		成人看護援助論Ⅱ	2	2		60	30		
		老年看護学概論	2	1		15	8		
		老年看護援助論	2	1		30	15		
		クリティカルケア	3	1		15	8		
		リハビリテーション看護学	2	1		15	8		
		成人・老年看護援助論演習	3	1		30	15		
		小計	8科目	10	0	0	240		122
	母性・小児看護学	母性看護学概論	2	1		15	8	必修8単位	
		母性看護援助論	3	2		60	30		
		母性看護援助論演習	3	1		30	15		
		小児看護学概論	2	1		15	8		
		小児看護援助論	3	2		60	30		
		小児看護援助論演習	3	1		30	15		
		小計	6科目	8	0	0	210		106
	精神看護学	精神看護学概論	2	1		15	8	必修4単位	
		精神保健看護論	2	1		30	15		
		精神看護援助論	3	1		30	15		
		精神看護援助論演習	3	1		30	15		
		小計	4科目	4	0	0	105		53
	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1	2		30	15	必修4単位	
		公衆衛生看護学Ⅰ	2	2		60	30		
		保健活動・保健指導の基礎	3		2	60	30		
公衆衛生看護学Ⅱ		3		3	90	45			
保健活動・保健指導の応用		4		3	45	23			
公衆衛生看護学Ⅲ 地域診断演習		4		2	60	30			
公衆衛生看護学Ⅳ 公衆衛生看護管理		4		2	60	30			
公衆衛生看護学Ⅴ 保健活動・保健指導の発展		4		2	60	30			
小計	6科目	4	10	0	345	173	4		
臨地実習	成人看護学実習(急性期)	3~4	3		135		必修15単位		
	成人看護学実習(慢性期)	3~4	3		135				
	老年看護学実習	3~4	3		135				
	母性看護学実習	3~4	2		90				
	小児看護学実習	3~4	2		90				
	精神看護学実習	3~4	2		90				
	公衆衛生看護学実習	4		5	225				
	小計	7科目	15	5	0	900		15	
中計	31科目	41	15	0	1800	454	41		

※1 保健師国家試験受験資格を得ようとする者は、*1~5の科目を修得しなければならない。
 ※2 *5の科目については、保健師国家試験受験資格希望申請許可者以外は履修不可。

区分	授 業 科 目	年 次	単 位 数			時 間	コ マ	卒業要件 (合計126単位以上)	備 考	
			必修	選択	自由					
統 合 分 野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	2	2		60	30	必 4 修 単 位		
		在宅看護論Ⅱ	3	2		60	30			
		小 計 2科目		4	0	0	120			60
		看護研究入門	3	1		30	15	必 修 7 単 位		
		医療安全管理論	2	1		30	15			
		ヒューマンケアリング論Ⅲ	4	1		30	15			
		災害看護	3	1		15	8			
		国際保健学	4		1	15	8			
		看護管理学	4	1		30	15			
		看護の歴史	4		1	30	15			
		緩和ケア	4		1	15	8			
		看護学特論	4		1	30	15			
		総合看護演習	4		1	30	15			
		卒業研究	4	2		90	45			
		小 計 11科目		7	5	0	345	174		7
	臨地実習	在宅看護実習	3～4	2		90		必 5 修 単 位		
		看護学総合実習	4	3		135				
	小 計 2科目		5	0	0	225	0	5		
	中 計 15科目		16	5	0	690	234	16	4	
合 計	103科目		115	39	0	4395	1576	115	11	

※2008～2011年度生

区 分	授 業 科 目	年 次	単 位 数			時 間	コ マ	卒業要件	
			必 修	選 択	自 由				
基 礎 科 目	キリスト教と文化	建学の理念	1	1		30	15	必修 4 単位	基礎科目の選択科目から3単位以上修得
		キリスト教入門	1	1		30	15		
		キリスト教の歴史と倫理	1		1	30	15		
		音楽	1		1	30	15		
		文化人類学	1		2	30	15		
		ジェンダー論	1		2	30	15		
		生命倫理	1	2		30	15		
		小 計 7科目		4	6		210		
	人間と社会	生物と地球環境	1		2	30	15	必修 6 単位	
		心理学	1		1	15	8		
		人間関係論	1	2		30	15		
		社会福祉学	1	2		30	15		
		ボランティア論	1		1	30	15		
		リーダーシップ論	2		2	30	15		
		食生活論	1	2		30	15		
		法学（日本国憲法を含む）	4		2	30	15		
		体育	4		2	30	15		
	小 計 9科目		6	6	4	255	128	6	
	コミュニケーション	コンピュータ・リテラシー	1	2		30	15	必修 7 単位	
		情報処理演習	1		2	30	15		
		Basic English	1	1		30	15		
		Basic Medical English	1	1		30	15		
		English Presentation	2		1	30	15		
		Communication in English	2		1	30	15		
English for Nursing		2	1		30	15			
日本語表現法とマナー		3	2		30	15			
小 計 8科目			7	4		240	120		7
中 計 24科目		17	16	4	705	353	17	3	
専 門 基 礎 科 目	人体の科学	生命科学	1	2		30	15	必修 9 単位	専門基礎科目の選択科目から2単位以上修得
		生化学	1	1		30	15		
		人体の構造と機能Ⅰ（解剖学）	1～2	2		60	30		
		人体の構造と機能Ⅱ（生理学）	1～2	2		60	30		
		薬理学	1	1		30	15		
		微生物学・感染学	2	1		30	15		
	小 計 6科目		9	0	0	240	120	9	
	疾病の成り立ちと回復	病態・疾病論Ⅰ （疾病総論、呼吸器、消化器、循環器）	2	1		30	15	必修 6 単位	
		病態・疾病論Ⅱ （外科学総論、脳・神経・筋）	2	1		30	15		
		病態・疾病論Ⅲ （運動器、内分泌・代謝、血液・造血器、腎・泌尿）	2	1		30	15		
		病態・疾病論Ⅳ （女性生殖器、免疫・アレルギー、感染症、腫瘍学、放射線医学）	2	1		30	15		
		病態・疾病論Ⅴ （小児疾患・女性医学）	2	1		30	15		
		病態・疾病論Ⅵ （救急医学、精神、感覚器）	2	1		30	15		
		小 計 6科目		6	0	0	180		
	生活者の健康	カウンセリング論	1		1	30	15	必修 9 単位	
		医療心理学	1		2	30	15		
		発達心理学	1		1	30	15		
		公衆衛生学・疫学	2	2		30	15		
		保健福祉行政論	2	2		30	15		
		保健統計学	2	2		30	15		
		健康教育論	1	1		30	15		
		健康と栄養	1	1		30	15		
		セルフケア論	2	1		30	15		
		障害者心理学	4		2	30	15		
音楽療法		4		2	30	15			
小 計 11科目		9	8		330	165	9		
中 計 23科目		24	8	0	750	375	24	2	

区分	授業科目	年次	単位数			時間	コマ	卒業要件	
			必修	選択	自由				
基礎看護学	看護学概論	1	1			30	15	必修13単位	
	看護理論	1	1			15	8		
	早期体験学習	1	1			45			
	ヒューマンケアリング論	1	1			15	8		
	基礎看護学方法論Ⅰ（基本看護技術）	1	2			30	15		
	基礎看護学方法論Ⅱ（生活援助技術）	1～2	3			90	45		
	フィジカルアセスメント	2	2			60	30		
	看護過程	2	1			30	15		
	医療安全管理論	2	1			30	15		
	家族看護論	1		1		30	15		
小計	10科目		13	1	0	375	166	13	
成人・老年看護学	成人看護学概論	2	1			15	8	必修10単位	
	急性期・回復期の成人看護援助論	2	2			60	30		
	慢性期・終末期の成人看護援助論	2	2			60	30		
	老年看護学概論	2	1			15	8		
	老年看護援助論	3	1			30	15		
	クリティカルケア	3	1			30	15		
	リハビリテーション看護学	2	1			30	15		
	成人・老年看護援助論演習	3	1			30	15		
	小計	8科目		10	0	0	270		
母性・小児看護学	発達看護学概論	2	1			30	15	必修8単位	
	発達看護援助論演習	3	2			60	30		
	母性看護援助論	3	2			60	30		
	小児看護援助論	3	2			60	30		
	障害児ケア	3	1			15	8		
小計	5科目		8	0	0	225	113	8	
精神看護学	精神看護学概論	2	1			15	8	必修4単位	
	精神保健看護論	3	1			30	15		
	精神看護援助論	3	1			30	15		
	精神看護援助論演習	3	1			30	15		
	小計	4科目		4	0	0	105		
地域看護学	地域看護学概論	1	2			30	15	必修13単位	
	地域看護活動論Ⅰ（地域看護の展開）	2	2			60	30		
	地域看護活動論Ⅱ（地域看護活動の方法と地域看護管理）	2	2			60	30		
	地域看護活動論Ⅲ（地域看護活動の場の違いと特徴）	3	3			90	45		
	在宅看護論Ⅰ	2	2			60	30		
	在宅看護論Ⅱ	3	2			60	30		
	小計	6科目		13	0	0	360		
臨床実習	基礎看護学実習	2	2			90		必修25単位	
	看護過程実習	2	2			90			
	成人看護学実習（急性期）	3～4	2			90			
	成人看護学実習（慢性期）	3～4	3			135			
	老年看護学実習	3～4	3			135			
	母性看護学実習	3～4	2			90			
	小児看護学実習	3～4	2			90			
	精神看護学実習	3～4	2			90			
	地域看護学実習	3～4	3			135			
	在宅看護実習	3～4	2			90			
看護学総合実習	4	2			90				
小計	11科目		25	0	0	1125		25	
目展開	看護研究入門	3	1			30	15	必修6単位	
	災害看護	3	1			15	8		
	国際保健学	3	1			15	8		
	看護管理学	4	1			30	15		
	看護の歴史	4		1		30	15		
	緩和ケア	4		1		30	15		
	卒業研究	4	2			90	45		
小計	7科目		6	2	0	240	121	6	
中計	51科目		79	3	0	2700	769	79	1
合計	98科目		120	27	4	4155	1497	120	6

専門科目の選択科目から1単位以上修得

【カリキュラムの構造（2012～2015年度生）】

専門分野

〈必修〉ヒューマンケアリング論Ⅲ 卒業研究
 〈選択〉総合看護演習
 【実習】看護学総合実習

※保健師コース
 卒業時に保健師免許受験資格の取得をするためのコース。
 2年次末に希望申請を行い、選考の結果受講者が決定する。

※保健師コース
 〈必修〉
 公衆衛生看護学Ⅱ
 公衆衛生看護学Ⅲ
 公衆衛生看護学Ⅳ
 公衆衛生看護学Ⅴ
 【実習】
 公衆衛生看護学実習

〔成人・老年看護学〕成人看護学概論 成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ 老年看護学概論 老年看護援助論
 クリティカルケア リハビリテーション看護学 成人・老年看護援助論演習
 【実習】成人看護学実習（急性期）・（慢性期） 老年看護学実習
 〔母性・小児看護学〕母性看護学概論 母性看護援助論 母性看護援助論演習 小児看護学概論
 小児看護援助論 小児看護援助論演習
 【実習】母性看護学実習 小児看護学実習
 〔精神看護学〕精神看護学概論 精神保健看護論 精神看護援助論 精神看護援助論演習
 【実習】精神看護学実習
 〔在宅看護論〕在宅看護論Ⅰ 在宅看護論Ⅱ
 【実習】在宅看護実習
 〔公衆衛生看護学〕公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学Ⅰ
 〈選択〉公衆衛生看護学Ⅱ 公衆衛生看護学Ⅲ 公衆衛生看護学Ⅳ 公衆衛生看護学Ⅴ
 看護研究入門 医療安全管理論 災害看護 看護管理学
 〈選択〉国際保健学 看護の歴史 緩和ケア 看護学特論

〔基礎看護学〕看護学概論 看護理論 ヒューマンケアリング論Ⅰ ヒューマンケアリング論Ⅱ
 基礎看護学方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ フィジカルアセスメント 看護過程 家族看護論
 【実習】基礎看護学実習 看護過程実習

専門基礎分野

人体の科学

生命科学
 生化学
 人体の構造と機能Ⅰ（解剖学）
 人体の構造と機能Ⅱ（生理学）
 薬理学
 微生物学・感染学

疾病の成り立ちと回復

病理学概論・総論
 病態・疾病論Ⅰ～Ⅵ
 呼吸器、消化器、循環器、
 外科学、脳神経、内分泌
 代謝、血液・造血器、腎・
 泌尿、女性生殖器、免疫、
 感染症、腫瘍学、小児、
 女性医学、救急医学、
 精神 etc.

生活者の健康

〈必修〉 カウンセリング論 公衆衛生・疫学 保健医療福祉行政論 保健統計学 健康教育論 健康と栄養 セルフケア論 臨床心理学	〈選択〉 音楽療法
--	--------------

基礎分野

キリスト教と文化

〈必修〉 建学の理念 キリスト教学入門 生命倫理	〈選択〉 キリスト教の歴史 と倫理 音楽 文化人類学
-----------------------------------	--

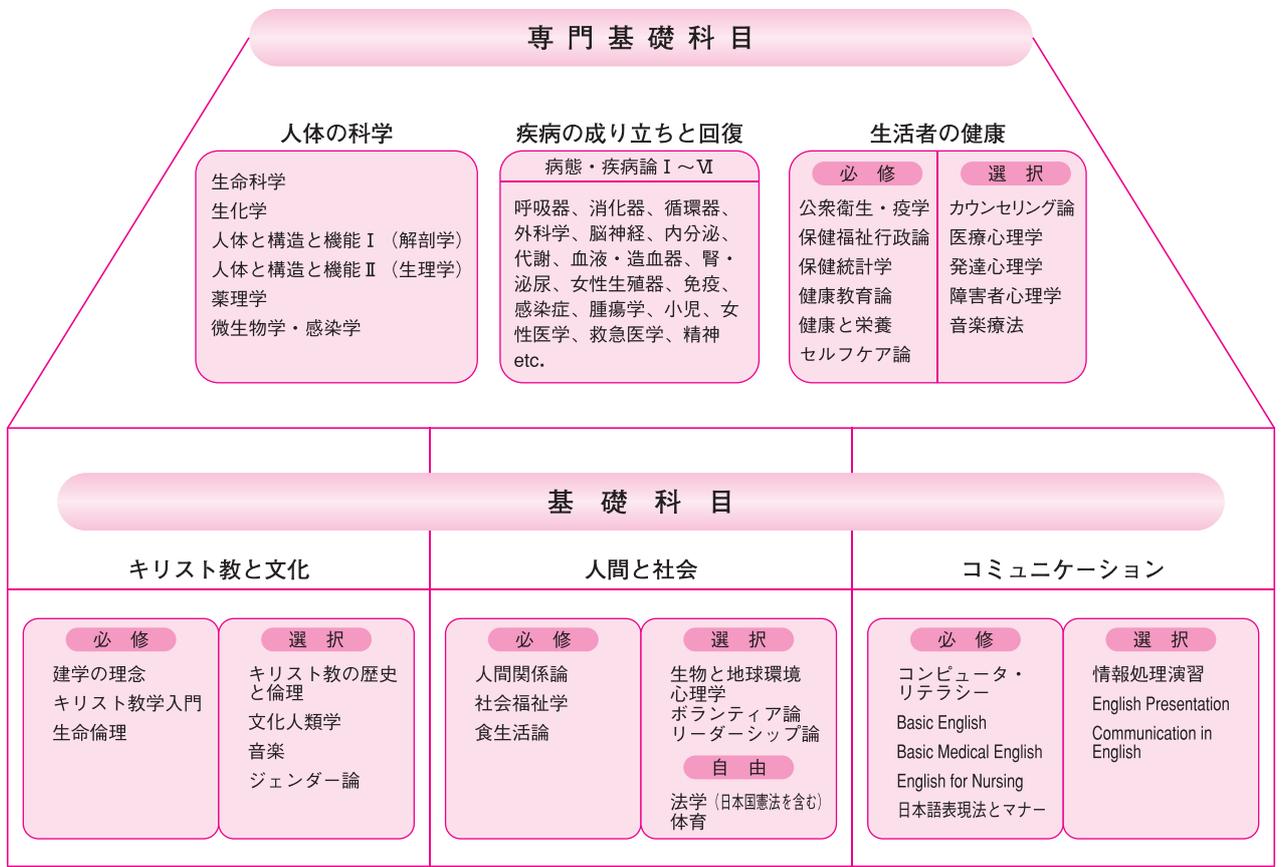
人間と社会

〈必修〉 人間の発達と心理 人間関係論 食生活論	〈選択〉 生物と地球環境 社会福祉学 ボランティア活動論 教育方法論 法学（日本国憲法を 含む） 体育
-----------------------------------	--

コミュニケーション

〈必修〉 コンピュータ・ リテラシー Basic English Basic Medical English English for Nursing コミュニケーション・ リテラシー	〈選択〉 情報処理演習 English Presentation Communication in English
--	---

【カリキュラムの構造 (2008～2011年度生)】



【カリキュラム進度表 (2012～2015年度生)】

区分	授業科目	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数			時間	コマ	卒業要件	備考	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	必修	選択	自由					
基礎分野	キリスト教と文化	建学の理念	1	→								1		30	15	必修4単位	基礎分野の選択科目から7単位以上修得	
		キリスト教入門	1	→								1		30	15			
		キリスト教の歴史と倫理	1		→								1		30			15
		音楽	1	→									1		30			15
		文化人類学	1	→	※集中講義								2		30			15
		生命倫理	1		→								2		30			15
	小計	6科目										4	4	0	180	90		4
	人間と社会	生物と地球環境	1	→									2		30	15		必修4単位
		人間の発達と心理	1	→									1		30	15		
		人間関係論	1		→								1		15	8		
		社会福祉学	1	→									2		30	15		
		ボランティア活動論	1	→									1		30	15		
		教育方法論	1		→								1		30	15		
		食生活論	1	→									2		30	15		
		法学(日本国憲法を含む)	1		→								2		30	15		
		体育	1	→									2		30	15		
	小計	9科目										4	10	0	255	128		4
	コンピュータ・リテラシー	コンピュータ・リテラシー	1	→									1		30	15		必修5単位
		情報処理演習	1		→								1		30	15		
		Basic English	1	→									1		30	15		
		Basic Medical English	1		→								1		30	15		
		English Presentation	2			→							1		30	15		
		Communication in English	2				→						1		30	15		
English for Nursing		2			→							1		30	15			
コミュニケーション・リテラシー		2			→							1		30	15			
小計	8科目										5	3	0	240	120	5		
中計	23科目										13	17	0	675	338	13	7	
専ら基礎分野	人体の科学	生命科学	1	→								2		30	15	必修9単位		
		生化学	1		→							1		30	15			
		人体の構造と機能Ⅰ(解剖学)	1		→							2		60	30			
		人体の構造と機能Ⅱ(生理学)	1		→							2		60	30			
		薬理学	1		→							1		30	15			
		微生物学・感染学	2			→						1		30	15			
	小計	6科目										9	0	0	240	120	9	
	疾病の成り立ちと回復	病理学概論・総論	1		→								1		30	15	必修7単位	
		病態・疾病論Ⅰ	1		→								1		30	15		
		病態・疾病論Ⅱ	2			→							1		30	15		
		病態・疾病論Ⅲ	2			→							1		30	15		
		病態・疾病論Ⅳ	2			→							1		30	15		
病態・疾病論Ⅴ		2			→							1		30	15			
病態・疾病論Ⅵ		2			→							1		30	15			
小計	7科目										7	0	0	210	105	7		
生活者の健康	カウンセリング論	1		→								1		30	15	必修12単位		
	公衆衛生学・疫学	2			→							2		30	15			
	保健医療福祉行政論	2			→							3		45	23			
	保健統計学	2			→							2		30	15			
	健康教育論	2			→							1		30	15			
	健康と栄養	1		→								1		30	15			
	セルフケア論	1		→								1		30	15			
	臨床心理学	2			→							1		30	15			
	音楽療法	4							→			2		30	15			
小計	9科目										12	2	0	285	143	12		
中計	22科目										28	2	0	735	368	28		

区分	授 業 科 目	年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位数			時間	コマ	卒業要件 (合計128単位以上)	備考	
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	必修	選択	自由					
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	1	▶								1			30	15	必修14単位 専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ及び統合分野の選択科目から4単位以上修得	
		看護理論	1		▶							1			15	8		
		ヒューマンケアリング論Ⅰ	1	▶								1			15	8		
		ヒューマンケアリング論Ⅱ	2			▶						1			30	15		
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	▶								1			30	15		
		基礎看護学方法論Ⅱ	1		▶							3			75	38		
		基礎看護学方法論Ⅲ	2			▶						2			45	23		
		フィジカルアセスメント	1		▶							1			30	15		
		看護過程	2			▶						2			60	30		
		家族看護論	1		▶							1			30	15		
		小 計	10科目									14	0	0	360	182		14
	臨地実習	基礎看護学実習	2			▶						1			45			修得
看護過程実習		2			▶						2			90		修得		
小 計		2科目								3	0	0	135	0	3			
中 計	12科目									17	0	0	495	182	17			
成人・老年看護学	成人看護学概論	1		▶							1			15	8	必修10単位		
	成人看護援助論Ⅰ	2			▶						2			60	30			
	成人看護援助論Ⅱ	2			▶						2			60	30			
	老年看護学概論	2			▶						1			15	8			
	老年看護援助論	2			▶						1			30	15			
	クリティカルケア	3				▶					1			15	8			
	リハビリテーション看護学	2			▶						1			15	8			
	成人・老年看護援助論演習	3				▶					1			30	15			
小 計	8科目									10	0	0	240	122	10			
母性・小児看護学	母性看護学概論	2			▶						1			15	8	必修8単位		
	母性看護援助論	3				▶					2			60	30			
	母性看護援助論演習	3				▶					1			30	15			
	小児看護学概論	2			▶						1			15	8			
	小児看護援助論	3				▶					2			60	30			
	小児看護援助論演習	3				▶					1			30	15			
小 計	6科目									8	0	0	210	106	8			
精神看護学	精神看護学概論	2			▶						1			15	8	必修4単位		
	精神保健看護論	2				▶					1			30	15			
	精神看護援助論	3					▶				1			30	15			
	精神看護援助論演習	3					▶				1			30	15			
小 計	4科目									4	0	0	105	53	4			
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	1		▶							2			30	15	必修4単位 *1 *2 *3 *4		
	公衆衛生看護学Ⅰ 保健活動・保健指導の基礎	2				▶					2			60	30			
	公衆衛生看護学Ⅱ 保健活動・保健指導の応用	3					▶					2		60	30			
	公衆衛生看護学Ⅲ 地域診断演習	3						▶			3			90	45			
	公衆衛生看護学Ⅳ 公衆衛生看護管理	4							▶		3			45	23			
	公衆衛生看護学Ⅴ 保健活動・保健指導の発展	4								▶	2			60	30			
	小 計	6科目									4	10	0	345	173		4	
	臨地実習	成人看護学実習（急性期）	3~4							▶		3			135			必修15単位 *5
		成人看護学実習（慢性期）	3~4							▶		3			135			
老年看護学実習		3~4							▶		3			135				
母性看護学実習		3~4							▶		2			90				
小児看護学実習		3~4							▶		2			90				
精神看護学実習		3~4							▶		2			90				
公衆衛生看護学実習		4								▶		5		225				
小 計	7科目									15	5	0	900		15			
中 計	31科目									41	15	0	1800	454	41			

※1 保健師国家試験受験資格を得ようとする者は、*1~5の科目を修得しなければならない。
 ※2 *5の科目については、保健師国家試験受験資格希望申請許可者以外は履修不可。

区分	授 業 科 目	年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位数			時間	コマ	卒業要件 (合計126単位以上)	備考		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	必修	選択	自由						
統 合 分 野	在宅看護論	在宅看護論Ⅰ	2			→						2			60	30	必修 4 単位		
		在宅看護論Ⅱ	3				→					2			60	30			
		小 計 2科目										4	0	0	120	60			4
	展 開	在宅看護論	看護研究入門	3				→					1			30	15		必修 7 単位
			医療安全管理論	2				→					1			30	15		
			ヒューマンケアリング論Ⅲ	4								→	1			30	15		
			災害看護	3					→				1			15	8		
			国際保健学	4								→		1		15	8		
			看護管理学	4								→	1			30	15		
			看護の歴史	4								→		1		30	15		
			緩和ケア	4								→		1		15	8		
			看護学特論	4								→		1		30	15		
			総合看護演習	4								→		1		30	15		
			卒業研究	4								→		2		90	45		
		小 計 11科目											7	5	0	345	174		7
臨 地 実 習	在宅看護実習	3~4								→		2			90		必修 5 単位		
	看護学総合実習	4								→		3			135				
	小 計 2科目											5	0	0	225	0		5	
	中 計 15科目											16	5	0	690	234	16	4	
	合 計 103科目											115	39	0	4395	1576	115	11	

【カリキュラム進度表 (2008～2011年度生)】

区分	授 業 科 目	年次	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		単位数			時間	コマ	卒業要件
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	必修	選択	自由			
基 礎 科 目	キリスト教と文化	建学の理念	1	→								1		30	15	必修4単位
		キリスト教入門	1	→								1		30	15	
		キリスト教の歴史と倫理	1	→								1		30	15	
		音楽	1	→								1		30	15	
		文化人類学	1	→	※集中講義							2		30	15	
		ジェンダー論	1	→								2		30	15	
		生命倫理	1	→								2		30	15	
	小 計	7 科目									4	6	0	210	105	4
	人間と社会	生物と地球環境	1	→								2		30	15	必修6単位
		心理学	1	→								1		15	8	
		人間関係論	1	→								2		30	15	
		社会福祉学	1	→								2		30	15	
		ボランティア論	1	→								1		30	15	
		リーダーシップ論	2	→		→						2		30	15	
		食生活論	1	→								2		30	15	
		法学 (日本国憲法を含む)	4							→	→		2	30	15	
		体育	4							→	→		2	30	15	
	小 計	9 科目									6	6	4	255	128	6
	コミュニケーション	コンピュータ・リテラシー	1	→								2		30	15	必修7単位
		情報処理演習	1	→								2		30	15	
		Basic English	1	→								1		30	15	
		Basic Medical English	1	→								1		30	15	
		English Presentation	2		→							1		30	15	
		Communication in English	2		→	→						1		30	15	
English for Nursing		2		→							1		30	15		
日本語表現法とマナー		3				→					2		30	15		
小 計	8 科目									7	4	0	240	120	7	
中 計	24 科目									17	16	4	705	353	17	
専 門 基 礎 科 目	人体の科学	生命科学	1	→								2		30	15	必修9単位
		生化学	1	→								1		30	15	
		人体の構造と機能 I (解剖学)	1~2	→	→							2		60	30	
		人体の構造と機能 II (生理学)	1~2	→	→							2		60	30	
		薬理学	1	→								1		30	15	
		微生物学・感染学	2		→							1		30	15	
	小 計	6 科目									9	0	0	240	120	9
	疾病の成り立ちと回復	病態・疾病論 I (疾病総論、呼吸器、消化器、循環器)	2		→							1		30	15	必修6単位
		病態・疾病論 II (外科学総論、脳・神経・筋)	2			→						1		30	15	
		病態・疾病論 III (運動器、内分泌・代謝、血液・造血器、腎・泌尿)	2			→						1		30	15	
		病態・疾病論 IV (女性生殖器、免疫・アレルギー、感染症、腫瘍学、放射線医学)	2			→						1		30	15	
		病態・疾病論 V (小児疾患・女性医学)	2			→						1		30	15	
		病態・疾病論 IV (救急医学、精神、感覚器)	2			→						1	30	15		
	小 計	6 科目									6	0	0	180	90	6
	生活者の健康	カウンセリング論	1	→	※集中講義							1		30	15	必修9単位
		医療心理学	1	→	※集中講義							2		30	15	
		発達心理学	1	→								1		30	15	
公衆衛生学・疫学		2		→							2		30	15		
保健福祉行政論		2			→						2		30	15		
保健統計学		2			→						2		30	15		
健康教育論		1	→								1		30	15		
健康と栄養		1	→								1		30	15		
セルフケア論		2		→							1		30	15		
障害者心理学		4							→	→		2	30	15		
音楽療法		4							→	→		2	30	15		
小 計	11 科目									9	8	0	330	165	9	
中 計	23 科目									24	8	0	750	375	24	
卒業要件																2

区分	授業科目	年次	1年次		2年次		3年次		4年次		単位数			時間	コマ	卒業要件		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	必修	選択	自由					
基礎看護学	看護学概論	1	▶								1			30	15	必修13単位		
	看護理論	1		▶							1			15	8			
	早期体験学習	1	▶								1			45				
	ヒューマンケアリング論	1	▶								1			15	8			
	基礎看護学方法論Ⅰ(基本看護技術)	1	▶								2			30	15			
	基礎看護学方法論Ⅱ(生活援助技術)	1~2	▶		▶						3			90	45			
	フィジカルアセスメント	2			▶	▶					2			60	30			
	看護過程	2			▶						1			30	15			
	医療安全管理論	2			▶						1			30	15			
	家族看護論	1		▶								1		30	15			
	小計	10科目									13	1	0	375	166		13	
	成人・老年看護学	成人看護学概論	2			▶						1			15		8	必修10単位
		急性期・回復期の成人看護援助論	2			▶	▶					2			60		30	
慢性期・終末期の成人看護援助論		2			▶	▶					2			60	30			
老年看護学概論		2			▶						1			15	8			
老年看護援助論		3				▶					1			30	15			
クリティカルケア		3				▶					1			30	15			
リハビリテーション看護学		2			▶						1			30	15			
成人・老年看護援助論演習		3				▶					1			30	15			
小計	8科目									10	0	0	270	136	10			
母性・小児看護学	発達看護学概論	2			▶						1			30	15	必修8単位		
	発達看護援助論演習	3				▶					2			60	30			
	母性看護援助論	3				▶					2			60	30			
	小児看護援助論	3				▶					2			60	30			
	障害児ケア	3				▶					1			15	8			
小計	5科目									8	0	0	225	113	8			
精神看護学	精神看護学概論	2			▶						1			15	8	必修4単位		
	精神保健看護論	3				▶					1			30	15			
	精神看護援助論	3				▶					1			30	15			
	精神看護援助論演習	3				▶					1			30	15			
小計	4科目									4	0	0	105	53	4			
地域看護学	地域看護学概論	1		▶							2			30	15	必修13単位		
	地域看護活動論Ⅰ(地域看護の展開)	2			▶						2			60	30			
	地域看護活動論Ⅱ(地域看護活動の方法と地域看護管理)	2				▶					2			60	30			
	地域看護活動論Ⅲ(地域看護活動の場の違いと特徴)	3					▶				3			90	45			
	在宅看護論Ⅰ	2				▶					2			60	30			
	在宅看護論Ⅱ	3					▶				2			60	30			
小計	6科目									13	0	0	360	180	13			
臨地実習	基礎看護学実習	2			▶						2			90		必修25単位		
	看護過程実習	2				▶					2			90				
	成人看護学実習(急性期)	3~4					▶				2			90				
	成人看護学実習(慢性期)	3~4					▶				3			135				
	老年看護学実習	3~4					▶				3			135				
	母性看護学実習	3~4					▶				2			90				
	小児看護学実習	3~4					▶				2			90				
	精神看護学実習	3~4					▶				2			90				
	地域看護学実習	3~4					▶				3			135				
	在宅看護学実習	3~4					▶				2			90				
看護学総合実習	4						▶			2			90					
小計	11科目									25	0	0	1125		25			
展開	看護研究入門	3				▶					1			30	15	必修6単位		
	災害看護	3				▶					1			15	8			
	国際保健学	3				▶					1			15	8			
	看護管理学	4					▶				1			30	15			
	看護の歴史	4					▶					1		30	15			
	緩和ケア	4					▶					1		30	15			
	卒業研究	4						▶			2			90	45			
小計	7科目									6	2	0	240	121	6			
中計	51科目									79	3	0	2700	769	79	1		
合計	98科目									120	27	4	4155	1497	120	6		

専門科目の選択科目から1単位以上修得

【病態・疾病論進度表（2012～2015年度生）】

1年次		前期				後期			
科目	単元	4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月
病態・疾病論Ⅰ	疾病の成り立ちと回復過程総論					→			
	呼吸器内科疾患					→	→		
	消化器内科疾患							→	→
	循環器内科疾患						→	→	

2年次		前期				後期			
科目	単元	4月	5月	6月	7月	10月	11月	12月	1月
病態・疾病論Ⅱ	外科総論					→	→		
	神経・筋疾患						→		
	脳神経外科								→
	呼吸器外科疾患							→	
	循環器外科疾患							→	
病態・疾病論Ⅲ	運動器疾患	→							
	内分泌・代謝疾患		→	→					
	血液・造血器疾患			→	→				
	腎・泌尿器疾患				→	→			
病態・疾病論Ⅳ	女性生殖器					→			
	免疫・アレルギー・感染症		→	→					
	腫瘍学		→						
	脳・神経疾患			→	→				
	放射線学	→	→						
病態・疾病論Ⅴ	小児疾患					→	→		
	女性医学							→	→
病態・疾病論Ⅵ	救急医学					→			
	精神							→	→
	血管外科						→		
	消化器外科					→	→		
	一般外科						→		

【病態・疾病論進度表（2008～2011年度生）】

2 年次		前期					後期			
科目	単元	4 月	5 月	6 月	7 月	10 月	11 月	12 月	1 月	
病態・疾病論Ⅰ	疾病の成り立ちと回復過程総論	→								
	呼吸器内科疾患	→	→							
	消化器内科疾患				→	→				
	循環器内科疾患		→	→						
病態・疾病論Ⅱ	外科総論					→	→			
	神経・筋疾患						→	→		
	脳神経外科								→	
	呼吸器外科疾患							→	→	
	循環器外科疾患							→	→	
病態・疾病論Ⅲ	運動器疾患	→								
	内分泌・代謝疾患	→	→							
	血液・造血器疾患			→	→					
	腎・泌尿器疾患			→	→	→				
病態・疾病論Ⅳ	女性生殖器				→	→				
	免疫・アレルギー・感染症		→	→						
	腫瘍学	→								
	脳・神経疾患			→	→					
	放射線学	→								
病態・疾病論Ⅴ	小児疾患					→	→			
	女性医学							→	→	
病態・疾病論Ⅵ	救急医学					→				
	精神							→	→	
	血管外科						→			
	消化器外科						→			
	一般外科						→			

【学 籍】

1. 学年および学期

学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わります。

なお、学年を前期（4月1日から9月30日）と後期（10月1日から3月31日）の2期に区分します。

2. 休業日

休業日は次のとおりです。

日曜日

国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号第3条）に定める休日

春期休業 3月21日から3月31日まで

夏期休業 8月1日から9月20日まで

冬期休業 12月25日から1月7日まで

※但し、必要に応じ、休業日を変更する場合があります。

3. 収容定員

学 科 名	入学定員	収容定員
看護学科	100名	400名

4. 修業年限と在学年限

修業年限とは、大学の教育課程を修了するのに必要な期間を示します。これに対して在学年限とは、学生が大学に在学できる最長期間のことを示します。本学においては、修業年限は4年、在学年限は8年と定められています。（学則第6条・7条）

5. 入 学

本学に入学を志願する者は、選考の上、1年次に入学を許可します。（学則第28条～32条）

6. 再 入 学

本学を退学した者で、本学への入学を志願する者があるときは、選考の上、相当年次に入学を許可することがあります。（学則第40条）

7. 編 入 学

本学へ編入学を志願する者は、選考の上、相当年次に入学を許可することがあります。（学則第40条）

8. 休 学

疾病その他やむを得ない理由で、3ヶ月以上修学できない者は、保証人連署の上理由書を付して願出、学長の許可を得て休学することができます。

疾病のため修学することが適当でないと認められる場合、学長は休学を命ずることができます。疾病の場合は医師の診断書が必要となります。（学則第36条・37条）

- (1) 休学期間は1年以内とします。ただし、特別の理由がある場合は、休学期間を延長することができます。
- (2) 休学期間は通算して4年を越えることはできません。
- (3) 休学期間は在学年限には算入しません。

9. 復 学

- (1) 休学の期間が過ぎて復学する場合は、所定の手続きにしたがい「復学願」を提出しなければなりません。
- (2) 休学期間が半期間（前期または後期）、1年間のいずれの場合も復学した場合は、年次は原級にとどまります。

10. 退 学

- (1) 事情により退学しなければならなくなった場合は、所定の手続きにしたがい「退学願」を提出し、同時に学生証を返却しなければなりません。なお、「退学願」を提出する場合は、あらかじめ学生アドバイザーおよび学務係に相談してください。
- (2) 学則または諸規定に違反し、あるいは学生としての本分に反する次の各号の1つに該当する行為があった場合は、教授会の議を経て、学長が退学を命じることがあります。（学則第48条）
 - ① 性行不良で改善の見込みがない者
 - ② 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者
 - ③ 正当の理由がなくて、出席が常でない者
 - ④ 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

11. 除 籍

学長は学生が次の各号の1つに該当する場合は、教授会の議を経て、除籍することができます。（学則第35条）なお、除籍とは学則に基づいて学長が行う退学処分のうち、懲戒による退学を除いたもので、在学関係の解除が事務処理的に行われるものです。

- ① 期限までに学費の納入を行わず、督促してもなお納付しない者
- ② 在学が8年に及び、なお卒業資格が得られない者
- ③ 休学期間が通算して4年を超え、なお復学できない者
- ④ その他、除籍が必要と認められる者

12. 聴 講 生

本学では、特定の授業科目の聴講を志願する者がある場合は、正規の学生の学業に支障のない限り、教授会で選考の上、聴講生となることを許可します（別途聴講料が発生します）。なお、聴講生は単位の修得はできません。

13. 科目等履修生

本学では、特定の授業科目の履修及び単位修得を志願する者がある場合は、正規の学生の学業に支障のない限り、教授会での選考の上、年間1科目または複数科目の履修を許可します（別途履修料が発生します）。

履修した授業科目について所定の課程を修得し、試験に合格した場合には、大学の正規の単位が与えられます。

【履 修 (2012～2015年度生)】

〈科 目〉

本学では、授業科目の区分を「必修科目」「選択科目」「自由科目」とし、各授業科目を「必修科目」「選択科目」および「自由科目」に分けて各年次に配当し、教育課程を編成しています。

〈単 位〉

1. 単 位

単位とは、学修量を示す基準です。学生は、それぞれの授業科目に与えられている単位を一定の基準にしたがい修得して、学則に定められた単位数に達することにより、卒業の資格が与えられます。

2. 単位と時間数

- (1) 授業は前期、後期の2学期に分けられて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としています。
- (2) 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。
〔本学では、授業時間割の1時限(90分)を2時間とみなします。〕

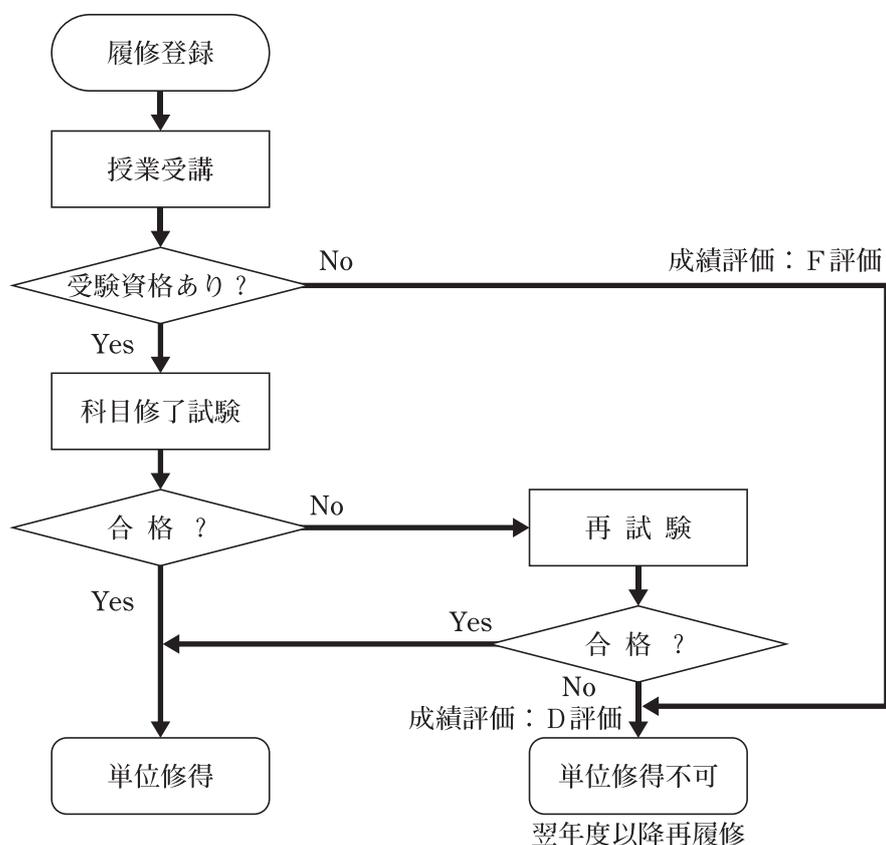
本学では、授業科目の性質により次の基準で単位数を計算します。

- ① 講義、演習……………15時間から30時間の範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習、実技……………30時間から45時間の範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

3. 単位の認定

学生が履修登録を行い、授業回数の3分の2以上に出席した科目について、科目担当責任者が平常の学修状況とその成果を考査した結果、合格と判定した場合には所定の単位が与えられます。

〈単位修得までの流れ〉



4. 履修要件と進級判定

(1) 履修要件

2年次から開講される各実習を履修するためには、先行して履修すべき科目の単位を修得し、かつ、各実習におけるオリエンテーションに出席しなければなりません。

① 基礎看護学実習（2年次7月実施予定）

「看護学概論」「基礎看護学方法論Ⅰ」「基礎看護学方法論Ⅱ」の単位を修得済みであること。

② 看護過程実習（2年次1～2月実施予定）

「基礎看護学実習」の単位を修得し、かつ「看護過程」を履修し、履修規程第10条第3項に定める試験の受験資格を有しておくこと。

③ 臨地実習（3年次後期～4年次前期）※ a) b) の両方を満たしておくこと。

a) 「基礎看護学実習」「看護過程実習」の単位を修得済みであること。

b) 1～3年次前期に修得すべき必修科目のうち、不合格科目が3科目以内であること。但し、全体の不合格科目数が3科目以内であっても、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱおよび統合分野の小区分において不合格科目が2科目以上ある場合は、臨地実習を受講することはできない。

④ 看護学総合実習（4年次前期）

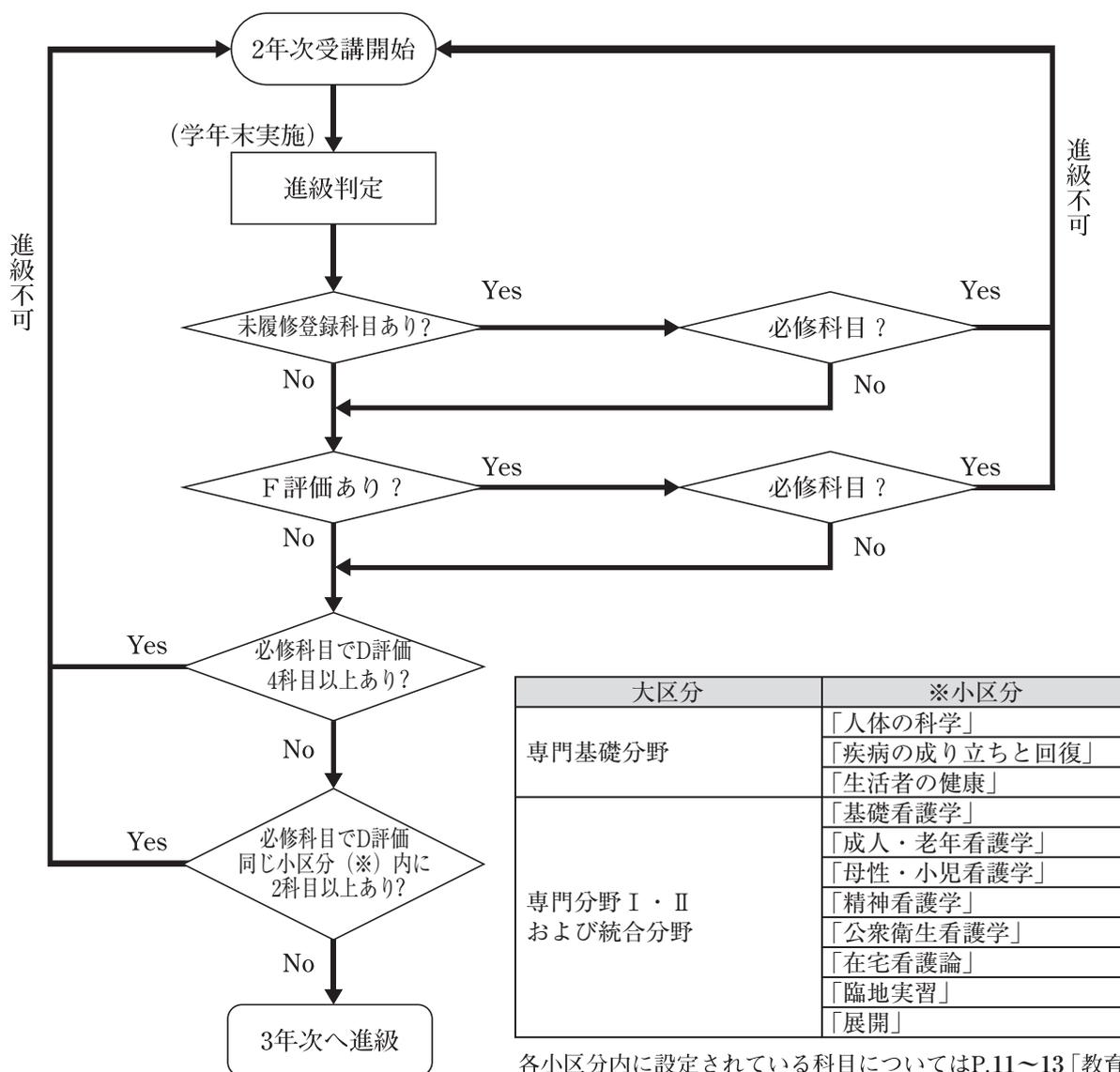
3年次後期に開講される実習科目のうち、不合格科目(D評価・F評価)が1科目以内であること。

(2) 進級判定

2年次末に実施する進級判定において、下記のいずれかに該当する場合は3年次への進級はできません。

- ① 1・2年次において開講される必修科目のうち、未履修登録の科目または受験資格がなく成績評価がF評価となった科目がある場合
- ② 1・2年次において開講される必修科目のうち、成績評価がD評価となった科目が4科目以上の場合。但し全体でD評価となった科目が3科目以内であっても、専門基礎分野、専門分野I・IIおよび統合分野の小区分においてD評価となった科目が2科目以上ある場合は、進級することはできない。

〈進級判定の図〉



各小区分内に設定されている科目についてはP.11～13「教育課程」を参照のこと。

5. 「保健師選択コース」選考について

(1) 「保健師選択コース」を選択できる学生の条件

「保健師選択コース」履修の志望動機が明確なもので、福岡女学院看護大学履修規程細則第4条の選考基準を満たし、且つ、2年前期までのGPA累積平均点が2.5以上のもの。

(2) 選考人数及び選考方法

- 1) 選考人数は18名以内とする。
- 2) 選考は面接等を行い、「保健師選択コース」志望動機、日頃の学習態度等を加味して総合的に評価し選考する。
- 3) 志望者が18名に満たない場合でも選考を行い、「保健師選択コース」履修の適否を判定する。

(3) 選考の流れ

2年次【4月】オリエンテーションにおいて選考方法について説明

【1月】「保健師選択コース志望申請書」受付

※① 受付期間 : 後期授業再開日 ~ 1月末日

※② 受付時間 : 9:00 ~ 17:00

※③ 提出場所 : 事務室(学務窓口)

【3月】(初旬) 選考

(中旬以降) コース履修許可者発表

(4) その他

- 1) 選考検定料 : なし
- 2) 学 費 : 実習費(5万円)を徴収する。

6. 卒業資格

休学期間を除いて4年以上在学し、学則第15条および第16条に定める所定の単位数を修得した者については教授会の議を経て、学長が卒業を認定します。なお、卒業が認定された者には「学士（看護学）」の学位が与えられます。

【卒業時に取得できる資格】

看護師国家試験受験資格 }
保健師国家試験受験資格 } 7. 国家試験受験資格取得についてを参照

【保健師免許取得後、申請により取得できる資格】

養護教諭二種免許

※本免許を申請するためには、教育職員免許法施行規則 第66条の6により下記の科目を修得することが必要です。

法学(日本国憲法を含む)、体育、Basic English、Basic Medical English、コンピュータ・リテラシー、情報処理演習

第一種衛生管理者免許

7. 国家試験受験資格取得について

【看護師国家試験受験資格】

本学の課程を修了した者は、看護師国家試験受験資格を取得することができます。

【保健師国家試験受験資格】

本学の課程を修了し、且つ保健師選択コースにおいて指定された科目を履修した場合に取得することができます。

保健師選択コースの履修が許可された学生が履修しなければならない授業科目は下表のとおりです。

区 分	授 業 科 目	単 位
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学Ⅱ 保健活動・保健指導の応用	2
	公衆衛生看護学Ⅲ 地域診断演習	3
	公衆衛生看護学Ⅳ 公衆衛生看護管理	3
	公衆衛生看護学Ⅴ 保健活動・保健指導の発展	2
	公衆衛生看護学実習	5

8. 卒業に必要な単位数

卒業に必要な単位数は126単位以上で、次の表のとおりです。

区 分		修得すべき単位数	
		必 修	選 択
基 礎 分 野	キリスト教と文化	4	7 以上
	人間と社会	4	
	コミュニケーション	5	
	小 計	20以上	
専 門 基 礎 分 野	人体の科学	9	7 以上
	疾病の成り立ちと回復	7	
	生活者の健康	12	
	小 計	28以上	
専 門 分 野 及び 統 合 分 野	基礎看護学	14	4 以上
	成人・老年看護学	10	
	母性・小児看護学	8	
	精神看護学	4	
	公衆衛生看護学	4	
	在宅看護論	4	
	臨地実習	23	
	展 開	7	
小 計	78以上		
合 計	126以上		

〈履修登録〉

1. 履修登録

履修登録とは、学生がその学期において履修するすべての授業科目を申告（登録）し、大学がそれを承認する手続きのことです。また、履修登録は学生各自が登録結果の確認をして初めて完結となります。学生にとってはこの履修登録が、単位修得、すなわち卒業資格を得るための重要な手続きとなりますので、学生各自の責任において誤りのないように行ってください。

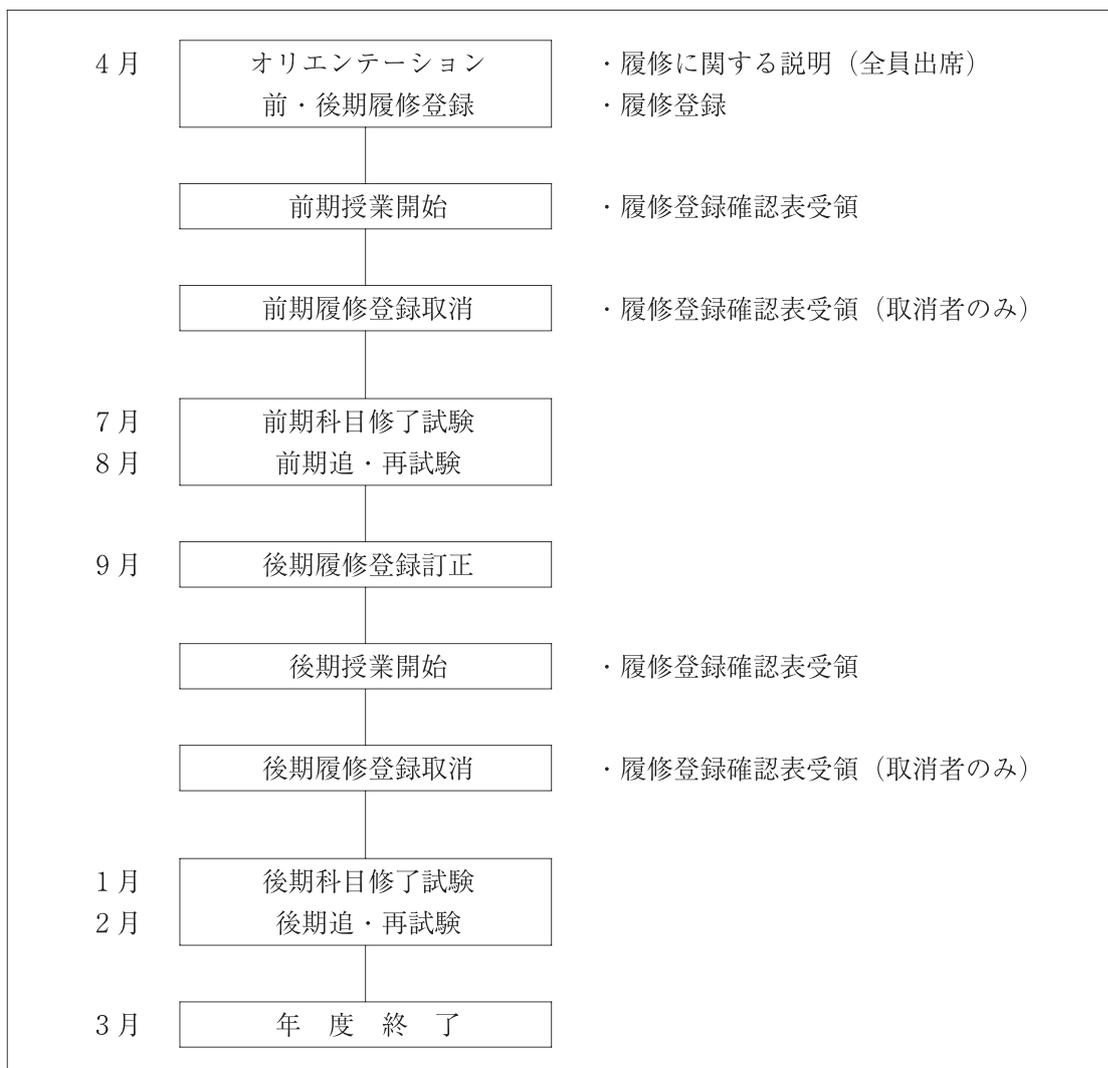
2. 履修登録上の注意

- (1) 各年度初めの所定の期日に、学務係より指示される方法で履修登録を行なってください。（期限厳守） 病気その他やむを得ない理由で本人が登録できない場合は、学務係へ連絡してください。
無断で所定の期日に履修登録を行わなかった場合は、履修を放棄したものとみなします。
- (2) 履修する授業科目は、原則として、学年毎に開講される授業科目の中から選択します。上級年次配当の授業科目は履修することができません。
- (3) 履修登録をせずに授業を履修した場合は無効となります。
- (4) 選択科目の変更・追加・削除等については、学期毎に設定する履修訂正期間に行ってください。期間外の変更・追加・削除等は一切認められません。各自、慎重に履修計画を立ててください。
- (5) 履修登録終了後、履修登録確認表で必ず登録内容を確認してください。各自で確認後、登録内容に誤りがある場合は、所定の期日に学務係に申し出てください。**期日外の申し出は一切認められません。(期限厳守)** また、履修確認表は成績が確定する学期末まで必ず保管をしておいてください。

（再発行は行いません）

- (6) 一度単位を修得した授業科目（既修得単位科目）は、重ねて履修することはできません。
- (7) 週2回以上開講される授業科目については、曜日が早い1回目の曜日の科目のみを登録してください。
- (8) 単位修得できなかった科目を再度履修する場合は、次年度に改めて履修登録を行ってください。

<履修登録に関するスケジュール> ※詳細については掲示で必ず確認をしてください。



【履 修 (2008～2011年度生)】

〈科 目〉

本学では、授業科目の区分を「必修科目」「選択科目」「自由科目」とし、各授業科目を「必修科目」「選択科目」および「自由科目」に分けて各年次に配当し、教育課程を編成しています。

但し、「自由科目」については単位は修得できますが、その単位は卒業要件には含まれません。

〈単 位〉

1. 単 位

単位とは、学修量を示す基準です。学生は、それぞれの授業科目に与えられている単位を一定の基準にしたがい修得して、学則に定められた単位数に達することにより、卒業の資格が与えられます。

2. 単位と時間数

- (1) 授業は前期、後期の2学期に分けられて実施され、原則として15週をもって1学期、30週をもって1学年としています。
- (2) 1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としています。

[本学では、授業時間割の1時限(90分)を2時間とみなします。]

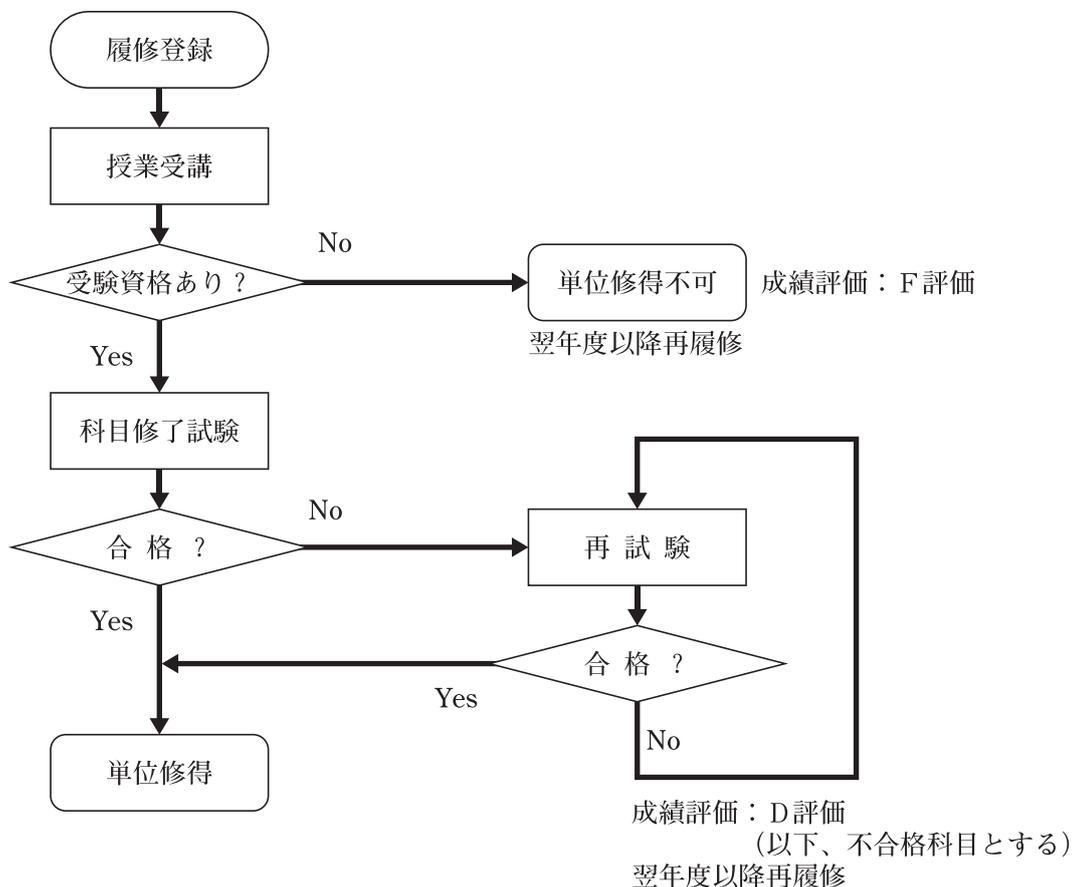
本学では、授業科目の性質により次の基準で単位数を計算します。

- ① 講義、演習……………15時間から30時間の範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習、実技……………30時間から45時間の範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

3. 単位の認定

学生が履修登録を行い、授業回数の3分の2以上に出席した科目について、科目担当責任者が平常の学修状況とその成果を考査した結果、合格と判定した場合には所定の単位が与えられます。

〈単位修得までの流れ〉



4. 履修要件と進級判定

(1) 履修要件

2年次から開講される各実習を履修するためには、先行して履修すべき科目の単位を修得し、かつ、各実習におけるオリエンテーションに出席しなければなりません。

① 基礎看護学実習（2年次9月実施予定）

「看護学概論」「基礎看護学方法論Ⅰ（基本看護技術）」「基礎看護学方法論Ⅱ（生活援助技術）」の単位を修得済みであること。

② 看護過程実習（2年次1～2月実施予定）

「基礎看護学実習」「看護過程」の単位を修得済みであること。

③ 臨地実習（3年次後期～4年次前期「看護学総合実習」を除く） ※ a) b) の両方を満たしておくこと。

a) 「基礎看護学実習」「看護過程実習」の単位を修得済みであること。

b) 1～3年次前期に修得すべき必修科目のうち、不合格科目が3科目以内であること。但し、全体の不合格科目数が3科目以内であっても、専門基礎科目および専門科目の小区分におい

て不合格科目が2科目以上ある場合は、臨地実習を受講することはできない。

④ 看護学総合実習（4年次前期）

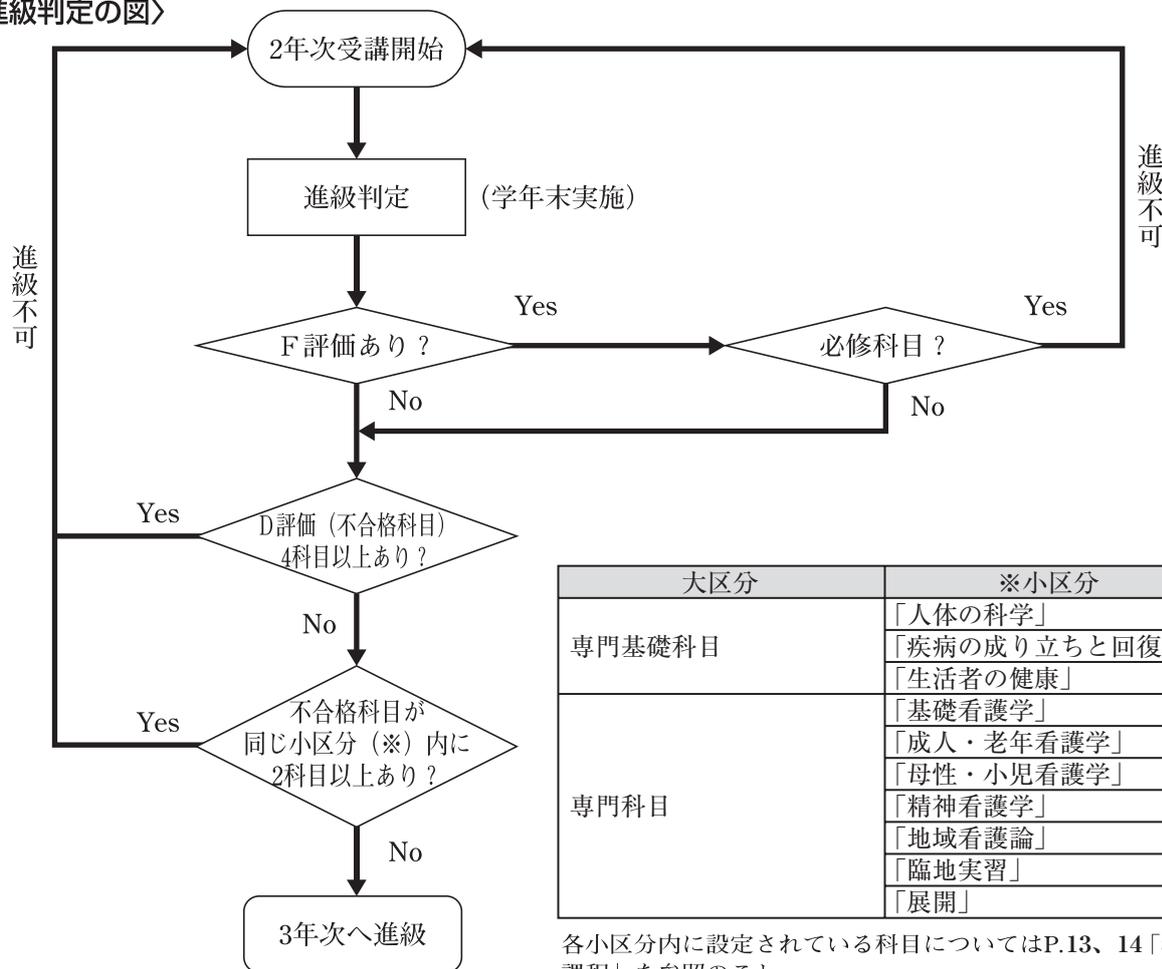
3年次後期に開講される実習科目のうち、不合格科目(D評価・F評価)が1科目以内であること。

(2) 進級判定

2年次末に実施する進級判定において、下記のいずれかに該当する場合は3年次への進級はできません。

- ① 1・2年次において開講される必修科目のうち、履修登録を行っていない科目または受験資格がなく成績評価がF評価となった科目がある場合
- ② 1・2年次において開講される必修科目のうち、成績評価がD評価となった科目が4科目以上の場合。但し全体でD評価となった科目が3科目以内であっても、専門基礎分野、専門分野I・IIおよび統合分野の小区分においてD評価となった科目が2科目以上ある場合は、進級することはできない。

〈進級判定の図〉



大区分	※小区分
専門基礎科目	「人体の科学」
	「疾病の成り立ちと回復」
	「生活者の健康」
専門科目	「基礎看護学」
	「成人・老年看護学」
	「母性・小児看護学」
	「精神看護学」
	「地域看護論」
	「臨地実習」
	「展開」

各小区分内に設定されている科目についてはP.13、14「教育課程」を参照のこと。

5. 卒業資格

休学期間を除いて4年以上在学し、学則第15条および第16条に定める所定の単位数を修得した者については教授会の議を経て、学長が卒業を認定します。なお、卒業が認定された者には「学士（看護学）」の学位が与えられます。

【卒業時に取得できる資格】

看護師国家試験受験資格

保健師国家試験受験資格

【保健師免許取得後、申請により取得できる資格】

養護教諭二種免許

※本免許を申請するためには、教育職員免許法施行規則 第66条の6により下記の科目を修得することが必要です。

法学(日本国憲法を含む)、体育、Basic English、Basic Medical English、コンピュータ・リテラシー

第一種衛生管理者免許

6. 卒業に必要な単位数

卒業に必要な単位数は126単位以上で、次の表のとおりです。

区 分		修得すべき単位数				
		必 修	選 択	自 由		
基 礎 科 目	キリスト教と文化	4	3 以上	卒業要件には含まれません。		
	人間と社会	6				
	コミュニケーション	7				
	小 計	20以上				
専 門 基 礎 科 目	人体の科学	9	2 以上		卒業要件には含まれません。	
	疾病の成り立ちと回復	6				
	生活者の健康	9				
	小 計	26以上				
専 門 科 目	基礎看護学	13	1 以上			卒業要件には含まれません。
	成人・老年看護学	10				
	母性・小児看護学	8				
	精神看護学	4				
	地域看護学	13				
	臨地実習	25				
	展 開	6				
	小 計	80以上				
合 計	126以上					

〈履修登録〉

1. 履修登録

履修登録とは、学生がその学期において履修するすべての授業科目を申告（登録）し、大学がそれを承認する手続きのことです。また、履修登録は学生各自が登録結果の確認をして初めて完結となります。学生にとってはこの履修登録が、単位修得、すなわち卒業資格を得るための重要な手続きとなりますので、学生各自の責任において誤りのないように行ってください。

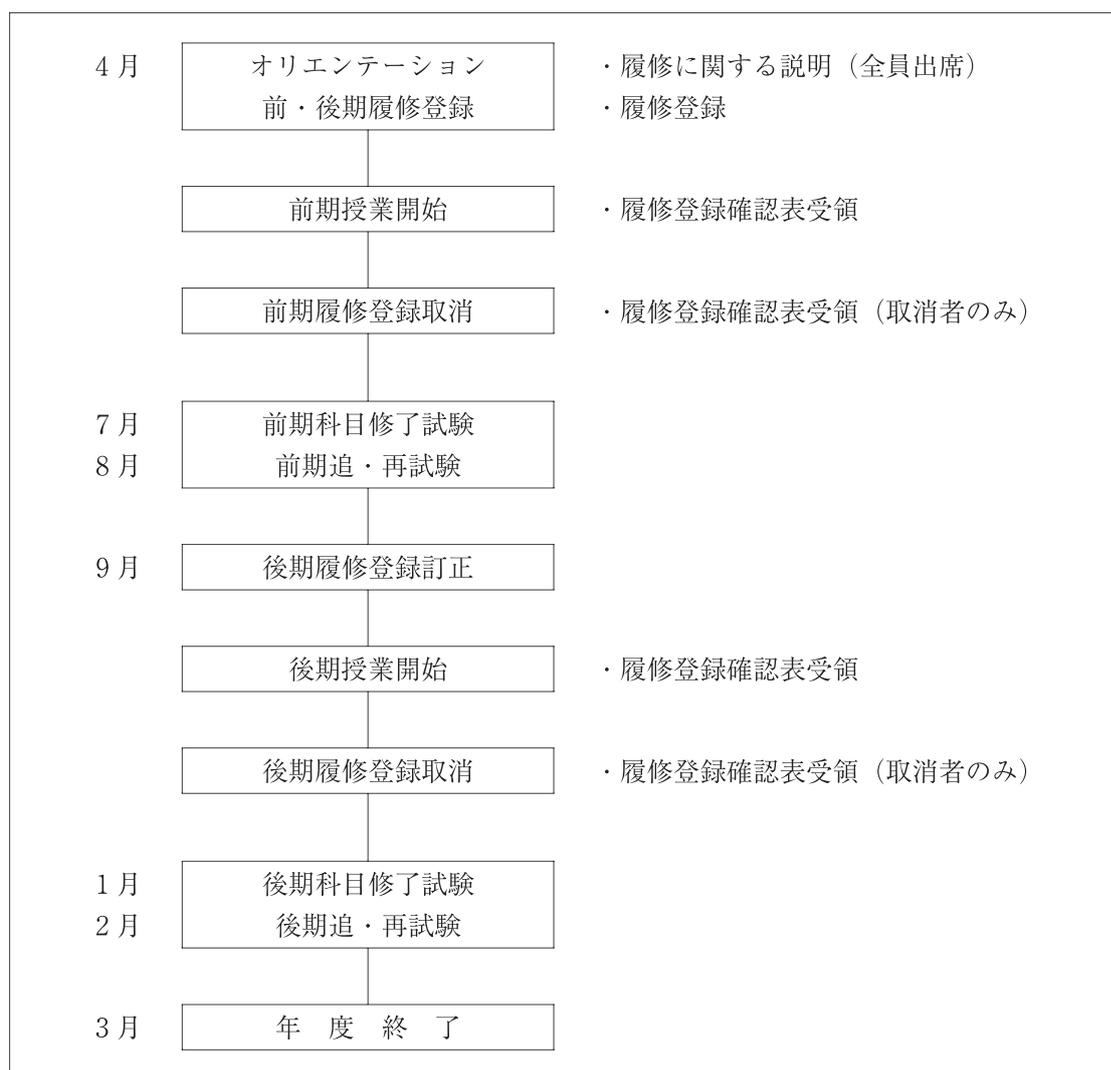
2. 履修登録上の注意

- (1) 各年度初めの所定の期日に、学務係より指示される方法で履修登録を行ってください。（期限厳守） 病気その他やむを得ない理由で本人が登録できない場合は、学務係へ連絡してください。

無断で所定の期日に履修登録を行わなかった場合は、履修を放棄したものとみなします。

- (2) 履修する授業科目は、原則として、学年毎に開講される授業科目の中から選択します。上級年次配当の授業科目は履修することができません。
- (3) 履修登録をせずに授業を履修した場合は無効となります。
- (4) 選択科目の変更・追加・削除等については、学期毎に設定する履修訂正期間に行ってください。期間外の変更・追加・削除等は一切認められません。各自、慎重に履修計画を立ててください。
- (5) 履修登録終了後、履修登録確認表で必ず登録内容を確認してください。各自で確認後、登録内容に誤りがある場合は、所定の期日に学務係に申し出てください。**期日外の申し出は一切認められません。(期限厳守) また、履修確認表は成績が確定する学期末まで必ず保管をしておいてください。(再発行は行いません)**
- (6) 一度単位を修得した授業科目（既修得単位科目）は、重ねて履修することはできません。
- (7) 週2回以上開講される授業科目については、曜日が早い1回目の曜日の科目のみを登録してください。
- (8) 単位修得できなかった科目を再度履修する場合は、次年度に改めて履修登録を行ってください。

<履修登録に関するスケジュール> ※詳細については掲示で必ず確認をしてください。



【授 業】

1. 授業時間

授業時間は、次のとおりです。（※集中講義等、時間帯が変更になる場合は掲示します。）

時 限	開始時間	～	終了時間
1 時 限	9 : 00	～	10 : 30
2 時 限	10 : 40	～	12 : 10
チャペル	12 : 15	～	12 : 35
昼 休 み	12 : 35	～	13 : 25
3 時 限	13 : 25	～	14 : 55
4 時 限	15 : 05	～	16 : 35
5 時 限	16 : 45	～	18 : 15

2. 休講および補講

- (1) 大学又は授業科目担当の教員にやむを得ない事情が生じた場合、授業を休講することがあります。
- (2) 休講したときは、そのための補講が行われます。補講は、5限目までの空き時間および土曜日に入る場合があります。
- (3) 休講および補講については掲示により伝達します。（P.61【掲示】参照）
- (4) 休講の掲示がなく、授業開始後20分を経過しても連絡がない場合は、学務係に申し出てその指示に従ってください。
- (5) 台風や交通機関の事故等については、5. 交通機関不通の場合の授業および試験の取り扱い（P.40）を参照してください。特に臨時休校の必要がある場合は、掲示その他で指示します。

3. 授業欠席

病気その他やむを得ない理由により、連続で7日以上欠席する場合（7日以上に渡る病気欠席の場合は欠席届に診断書を添付）は学務係に届けてください。（P.48～50【欠席届】参照）

※交通機関の運休等による場合は、5. 交通機関不通の場合の授業および試験の取り扱い(2)（P.40）を参照してください。

4. 学外授業

授業科目によっては学外授業が行われることがあります。

5. 交通機関不通の場合の授業および試験の取り扱い

交通機関が自然災害（台風・大雨・大雪等）・ストライキ等のために運行が中止された場合、当日の授業および試験は下記のとおり措置します。

- (1) J R九州の運行を基準とします。（※「J R古賀駅」を基点とする）

J R九州運行状況	授業および試験の取り扱い
午前7時までに再開	平常どおり実施
午前7時～午前9時までに再開	3時限目から実施 ※1・2時限目に予定されていた試験については別日程にて実施する（期日は掲示で伝達）
午前9時を過ぎても運行中止	全日休講（試験は実施しない） ※当該試験日の試験については別日程にて実施する（期日は掲示で伝達）

- (2) J R九州以外の交通機関が運休状態にあり、他の交通機関が利用できず授業を遅刻または欠席した場合は、事後速やかに下記の手続きを行って下さい。

①遅刻の場合：遅延証明書を当該科目の科目担当者に提出

②欠席の場合：遅延証明書を「欠席届」に添えて学務係に提出

- (3) 上記の他、何らかの事柄で交通機関に支障が生じ休講とする場合、または試験を実施しない場合は、学長がこれを決定します。

【臨地実習】 ※実習の詳細については実習要項を参照してください。

1. 履修要件（P.28、P.35 4. 履修要件と進級判定 参照）

2. 単位認定

- (1) 単位認定者：科目担当責任者

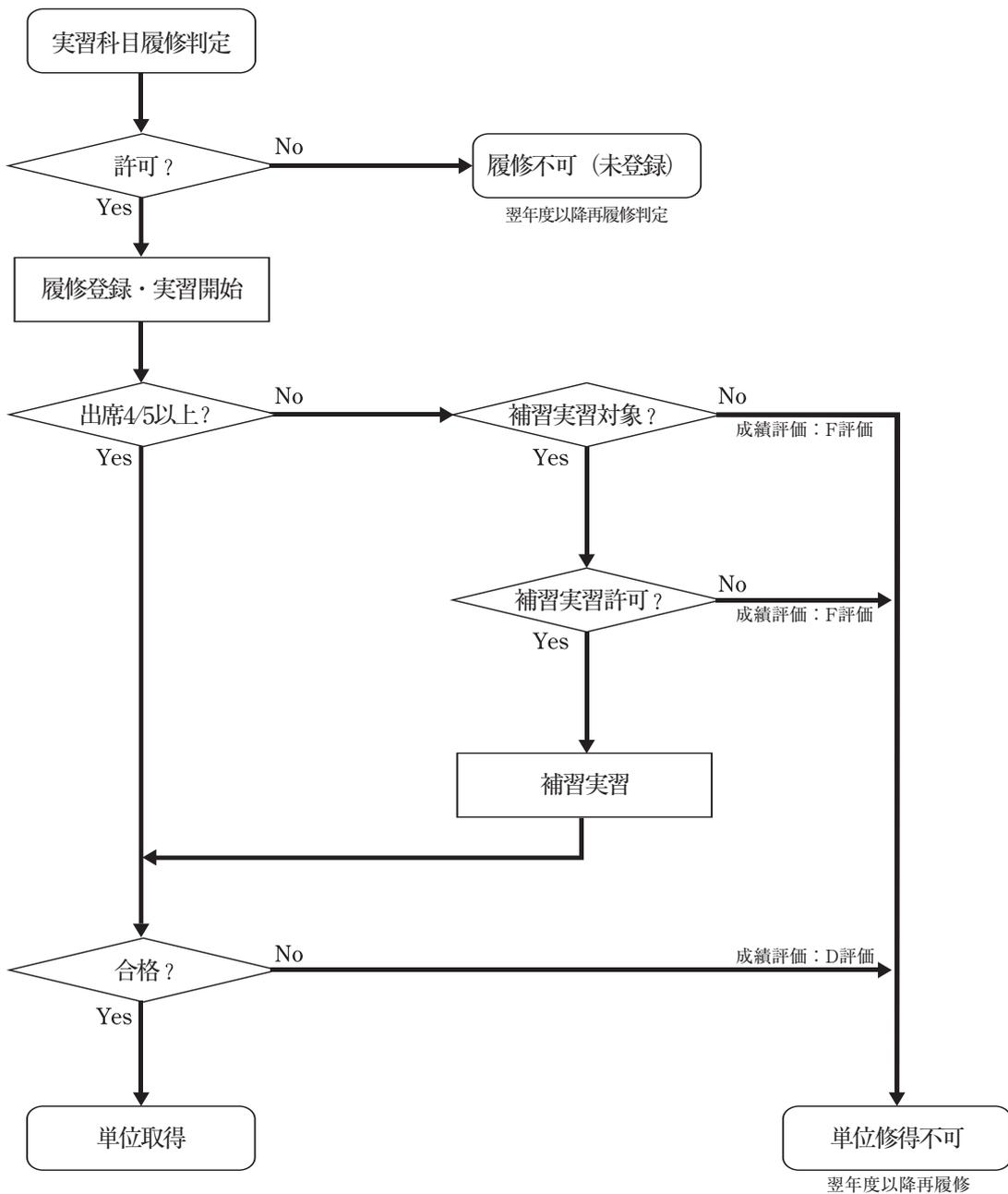
- (2) 単位認定の条件

実習の単位が認定されるためには下記の条件を満たしておく必要があります。

① 当該科目の履修登録をしていること。

② 学内学習日を含めた実習全日程の4/5以上出席していること。

<実習科目単位修得までの流れ>



3. 実習時間

原則として実習開始時間は8時30分、終了時間は16時30分です。但し、実習施設の状況や科目担当責任者の判断により変更となりますので、その指示に従ってください。

実習開始時間より遅れた場合を「遅刻」とし、終了時間より早く帰った場合を「早退」とします。遅刻・早退の合計時間の取り扱いについては、科目担当責任者の判断によるものとします。

4. 欠 席

病気その他やむを得ない理由により実習を欠席する場合の連絡については各実習における指示に従ってください。

欠席した場合は「臨地実習欠席届」に理由を証明する証明書を添付して学務係に提出してください。

5. 補習実習

補習実習は、病気やけが、忌引き、交通機関の事故、その他特別な事情により実習を欠席したため、出席日数が実習全日程（学内学習日を含む）の4/5以上に満たない場合、その旨を証明する証明書等を添えて所定の期日に願い出をした学生について審議を行い、許可された場合に行います。補習内容については別途指示を行います。

但し、補習実習に該当する欠席理由があっても、原則として当日の実習開始時間前までに実習担当教員へ欠席の連絡をしていない場合は補習実習の対象とはなりません。

補習実習を希望する場合は、「臨地実習の補習願」に欠席理由を証明する書類を添えて学務係に提出してください。

審議の結果、補習実習の許可を受けた者は、所定の手続きを行い事務室にて補習実習費を納入してください。

※費用については補習の内容によって異なります。

- ①施設において実習する場合：実費（単価×実習日数） 単価は実習施設によって異なります。
- ②学内のみで補習する場合：1科目につき 2,000円

※補習実習ができない場合は、出席日数不足により単位認定の条件を満たしていないため、単位認定は不可となり、当該実習は次年度以降に再履修をすることとなります。

【試 験】

1. 試験の方法

試験は、それぞれの授業科目に応じて、筆記・口述・レポート・論文・実技等によって行います。

この方法は、いずれか一つの方法で評価される場合もありますし、いくつかの方法を組み合わせる総合的に評価される場合もあります。詳しくはシラバス（授業概要）の「成績評価」の箇所に掲載されていますので参照してください。

2. 試験の種類

試験は、次のように分けられます。

なお、この他授業中に随時試験を行うことがあります。

科目修了試験 (期末試験)	授業科目を履修し、受験資格を得た者に対して、前期末または後期末に行う試験
追 試 験	病気その他やむを得ない理由で、試験に欠席した者に対して行う試験
再 試 験	担当教員が、必要と認めた場合に限り行う試験

3. 試験時間

試験時間は、次のとおりです。

時 限	開始時間	～	終了時間
1 時 限	9 : 00	～	10 : 30
2 時 限	10 : 50	～	12 : 20
昼 休 み	12 : 20	～	13 : 10
3 時 限	13 : 10	～	14 : 40
4 時 限	15 : 00	～	16 : 30
5 時 限	16 : 50	～	18 : 20

4. 受験資格

受験資格は次のとおりです。

受験資格のない者が試験を受けても無効となり、単位は与えられません。受験資格の有無については、所定の期日に掲示を行います。

- (1) 履修登録をしていること。
- (2) 出席時間数が出席すべき回数の2/3以上であること。

※通年開講の科目において前・後期に試験を実施する場合、当該期の出席すべき回数の2/3以上であること。

- (3) 当該期の授業料を納入していること。

5. レポートの提出

試験に代わるレポートの提出については、筆記試験と同様に規律を守ってください。レポートの形態・提出期日・提出方法については、科目担当教員の指示に従ってください。

6. 追 試 験

- (1) 追試験に該当する欠席理由があり、追試験を希望する者は、当該科目の試験開始前までに何らかの方法で試験欠席を学務係に連絡してください。科目修了試験（期末試験）を無断欠席した場合は、当該科目の追試験申込はできません。また、寝坊等で試験が受けられなかった場合は、正当な理由として認められず、追試験の認定を受けることができません。この場合、当該科目を無効とします。単位認定を受けるには、翌年度以降に再履修しなければなりません。
- (2) 追試験を希望する者は、科目修了試験（期末試験）最終日の翌日12:00までに（翌日が休業日の場合はその翌日まで）所定の「追試験願」に以下に記す必要な証明書を添えて学務係に提出してください。後日、許可者の発表を掲示にて行います。

欠席理由	必 要 な 証 明 書
病気、けが	安静治療・隔離を要する旨およびその期間が明記された医師の診断書
忌引き	会葬礼状および保護者連署の理由書
交通機関の事故	交通機関の発行する遅延証明書
その他、特別な事情	そのことを証明する文書等

- (3) 追試験の許可を受けた者は、許可者発表日の12:00(時間厳守)までに事務室にて下記の追試験受験料を添えて所定の手続きを行ってください。手続きを怠った場合は、追試験を受けることはできません。

追試験の受験料	1科目につき 2,000円
---------	---------------

- (4) 追試験の期日および時間割は、掲示にて伝達します。
- (5) 追試験の評価は、試験点数の80%とします。

7. 再試験

科目修了試験（期末試験）または追試験の結果、不合格となった場合、原則としてその科目は再履修しなければなりません。但し、科目担当教員が必要と認めた場合に限り、再試験を行います。なお、追試験にて不合格となった場合には再試は行われません。

- (1) 再試験の対象者については、所定の期日に掲示を行います。同日の12:00（時間厳守）までに所定の「再試験願」を提出して手続きを行ってください。

※再試験が筆記試験以外の場合でも、同様の手続きが必要です。

- (2) 再試験の期日および時間割は、掲示にて伝達します。
- (3) 再試験の評価は、CまたはDとします。
- (4) 再試験の手続きを行った者は、当該科目の再試験の前日の16:00（休日を除く、時間厳守）までに事務室にて下記の再試受験料を納入してください。手続きを怠った場合は、再試験を受けることはできません。

再試験の受験料	1科目につき 2,000円
---------	---------------

8. 受験上の注意（追試験・再試験を含む）

- (1) 試験の際は、監督者の指示に従い、他の受験者の迷惑にならないよう注意してください。
- (2) 試験開始5分前までには、指定された座席に着席してください。
- (3) 試験中は、学生証を必ず机の上に置いてください。学生証不携帯の者は試験を受けることができません。
- (4) 遅刻入場は、試験開始後20分までは認めます。但し、試験時間は延長されません。
- (5) 試験開始後30分以内の退場はできません。
- (6) 試験での使用を許可されたもの以外は、試験場に持ち込むことはできません。**特に携帯電話の持ち込みは厳禁**とします。
- (7) 日頃から体調管理には充分心がけ、万全の体調で試験に臨んで下さい。

9. 不正行為

試験中に不正行為をした者は、学則第48条に基づき懲戒処分の対象となります。また、すでに受験した科目を含め、当該学期に履修した全科目が失格(F)となります。

【成績】

1. 授業科目の成績評価

本学では合格・不合格の評価を5段階で行うとともに、全体的な学力を評価する指標として GPA を利用します。

2. 成績評価基準

区 分	評 価	成績評価基準	1単位あたりのGP(※2)
合 格	AA	100点～90点	4
	A	89点～80点	3
	B	79点～70点	2
	C	69点～60点	1
	N	認 定 (※1)	—
不 合 格	D	59点以下	0
	F	失格・放棄	0

※1 認定：編入学などで認定された既修得単位。GPA の計算対象外となる。

※2 GP：grade points の略。Nを除く成績評価を点数に置き換えたものを指す。

3. GPA (grade point average) について

GPA とは、成績が確定した科目の GP の総和を総単位数（不合格科目の単位数を含む）で割った値、つまり1単位あたりの GP の平均値を指し、0.00～4.00の数字で表示されます。この値は、全体的な学力を評価する指標として用いられます。成績通知表に記載される GPA には下記の3種類があります。

- ① 各学期に履修した授業から計算される GPA（学期 GPA と省略）
- ② 各学年に履修した授業から計算される GPA（学年 GPA と省略）
- ③ 在学期間に履修した全ての授業から計算される GPA（累積 GPA と省略）

4. GPA の計算方法

成績が確定した履修登録科目の成績評価の GP に、その科目に与えられている単位数をかけたものを、総単位数で割ります。計算式は以下のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{4 \times \text{AAの修得単位数} + 3 \times \text{Aの修得単位数} + 2 \times \text{Bの修得単位数} + 1 \times \text{Cの修得単位数}}{\text{総単位数 (D・Fの単位数も含む)}}$$

(計算例)

科目1：AA	科目2：A	科目3：D	科目4：F	科目5：B	科目6：C
	単位数		1単位あたりのGP		GP
科目1	4	×	4 (AA)	=	16
科目2	2	×	3 (A)	=	6
科目3	2	×	0 (D)	=	0

科目 4	2	×	0 (F)	=	0
科目 5	1	×	2 (B)	=	2
科目 6	1	×	1 (C)	=	1
総単位数	12				GP の総計25

$$*GPA = (GP \text{ の総計} \cdots 25) \div (\text{総単位数} \cdots 12) = 2.0833 \dots \approx 2.08$$

5. 成績発表・成績通知書の配付および保護者宛成績通知について

履修した授業科目の成績および修得単位を記載した成績通知書は、指定された期間内で福岡女学院看護大学ポータルシステム(F.P.S)にて閲覧ができますので、必ずその期間内で成績の確認および成績通知書の出力を行ってください。成績提示期間は掲示にて連絡します。

6. 成績等に関する問い合わせ

成績等に関する問い合わせ方法は下記のとおりとします。

なお、大学事務室への電話による問い合わせは一切受け付けません。

事 項	問い合わせ及び確認期間	問い合わせ先
科目修了試験受験資格	掲示日～科目修了試験期間開始日前日	科目担当教員
再試験受験資格	掲示日～再試験期間開始日前日	
成績通知書	学生配付日から1週間	

※科目担当教員が非常勤講師の場合は、学務係に申し出てください。